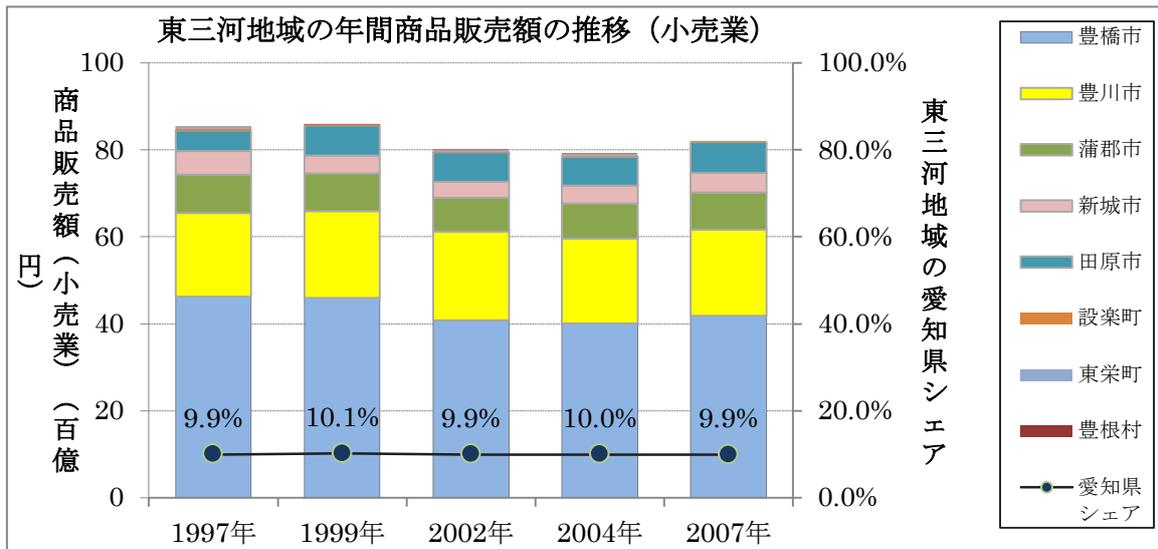


東三河地域の商業

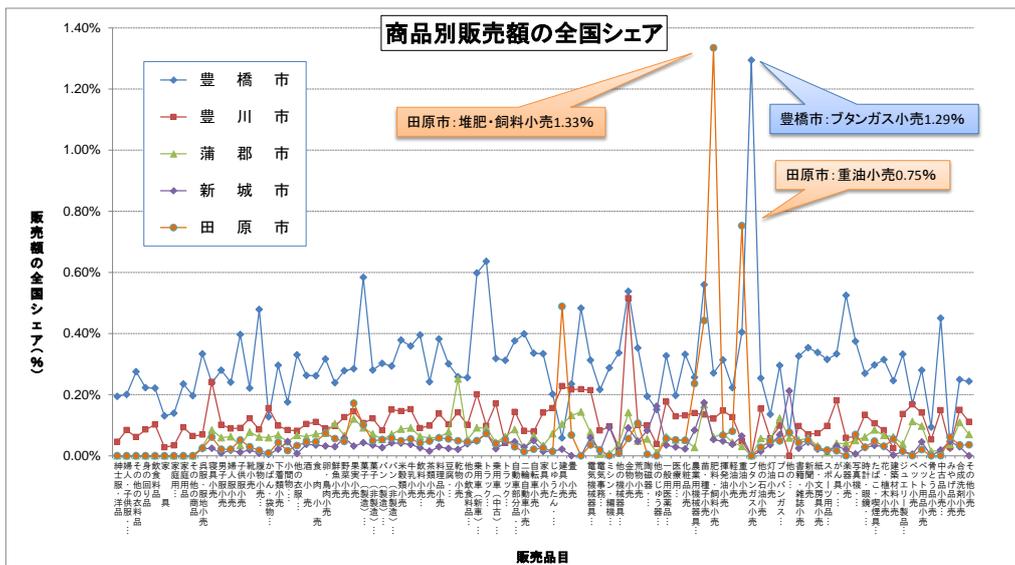
東三河地域の商業特性

東三河地域の年間商品販売額（小売業）をみると、1999年の約86百億円をピークに減少をはじめ2004年には約79百億円まで減少、その後2007年には約3百億円増加し、約82百億円まで回復、愛知県の商品出荷額の9.9%を占めている。内訳をみると、豊橋市が約41百億円で約50%を占め、次いで豊川市が約19百億円で約24%を占めている。



出典：商業統計（経済産業省 2007年）

次に東三河5市の商品別販売額を全国シェアでみると、豊橋市ではブタングスの小売りが1.29%と高い割合を占めている。また、田原では堆肥・飼料小売が1.33%、重油小売が0.75%、苗・種子小売なども高く、農業関連の販売シェアが高いことが分かる。



出典：商業統計（経済産業省 2007年）

東三河地域の大型店舗出店状況

最近 10 年の東三河地域における大型店舗の出店状況を見てみると、東三河 5 市のすべてに大型の家電量販店が出店している。また、食品スーパーも都市部を中心に増加しており、近年では大型のドラッグストアの出店が増加している。

平成 10 年にダイエー豊橋店(広小路通)が、平成 15 年には豊橋駅前の西武百貨店豊橋店が撤退し、大型商業施設の郊外立地が進み、ニトリ豊橋店、ジャンボエンチャー豊橋神野店等が立地した。最近では、豊橋駅前にココラフロント等の整備や歩行者天国(平成 24 年 10 月より実施)等が実施され、中心市街地活性化の活動が強化されてきているが、空き店舗の利用はなかなか進まず、若者も好んで中心市街地に来る傾向になっていない。



出典：大規模小売店舗立地法第 5 条第 1 項(新設)の届出件数(経済産業省平成 15 年～平成 24 年)